

自己点検・評価結果

データサイエンス・AI 入門プログラム(2022 年度以降入学者対象)

1. 自己点検・評価体制について

本プログラムは、本学全学教務委員会等により毎年の科目の状況等を自己点検し、改善を図っていくこととする。

2. 自己点検・評価体制における意見等

2-1. 学内からの視点

○プログラムの履修・修得状況

本プログラムを構成する「データサイエンス入門」は全学部2年次の必修科目となっており、2年次に進級した時点で自動的に履修登録される。このため、2年次生の履修率は100%となる(進級保留者・休学者は除く)。令和5年度においては、履修者758名、修了者663名(合格率87.4パーセント)であった。成績分布としては、S(90~100点)67.9%、A(80~89点)14.1%、B(70~79点)3.8%、C(60~69点)1.6%、不合格は12.5%であった。合格率・成績分布から、当該プログラムを学ぶことで期待される能力を多くの学生が身につけたことと考えられる。

○学修成果

本プログラムの授業においては、各回で小テストまたは課題を実施している。これにより各回の学生の理解度の把握を行った。また、記述形式を含む定期試験を課すことにより、授業内容全体に対する理解度が向上したと考えられる。

○学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

成績分布状況の分析によると、履修学生のうち87.5%が単位を修得しており、さらに全体の82%が高得点のS(90~100点)もしくはA(80~89点)評価で単位を修得していることから、全体として理解度は高かったと受け止めている。

○学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

全学部における必修科目であるため、後輩等他の学生への推奨度に関するアンケート等は行っていない。

○全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

全学部における必修科目であるため、履修者数・履修率向上に向けた取り組みは特に行っていない。

2-2. 学外からの視点

○教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本プログラムを構成する「データサイエンス入門」は令和5年度から開講であるため、履修した学生はまだ卒業していない。本学では卒業時に進路調査を行っており、その調査を活用し修了者の進路等について評価を行う予定である。

○産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本プログラムを構成する「データサイエンス入門」は動画教材として株式会社ベネッセコーポレーションのeラーニングコンテンツを利用している。同社のeラーニングコンテンツは香川大学・ベネッセコーポレーション・株式会社キカガクによる共同開発であり、学問の特性を踏まえた鮮度を担保する旨が謳われていることから、最新のデータサイエンスの情報を踏まえた産業界の視点が反映されていると考えている。

○数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

シラバスを通じて有用性やニーズの啓蒙を行い、数理・データサイエンス・AIを大学段階で学ぶことの意義を理解させている。また、社会での変化や活用されている身近な事例を講義に取り込むことで、数理・データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを享受させることができるよう担当教員間で検討し、授業内容に反映している。

○内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

動画教材を利用することで内容と水準の安定に努めている。それに加え、複数の教員が授業を担当して定期的な演習を実施することで理解や課題に対する細かなフィードバックを行い、より分かりやすい授業を展開している。その他、全学教務委員会にて、成績分布や学生へのフィードバック結果を参照しつつ継続的な授業改善を実施している。また、全学教務委員会において定期的に自己点検・評価を行い、検証と改善を図ることとしている。

以上